

ぼくらのまちの消防団

Firefighting Team of our Town

～樋脇中央分団～

団員の声

消防団へ入団して、早いもので12年が経過しました。今は若い団員も増え、頼もしく感じながらも「若い者には負けられない」と、オジサンパワー全開で頑張っています。これからも「地域防災の要」として体力が続く限り頑張っていきたいと思ひます。



団員 鎌田 純孝
かまだ すみたか

■ 所属：塔之原部
■ 年齢：49歳
■ 職業：会社員(通信関係)
■ 趣味：読書

「災害のない街づくり」を目指して

薩摩川内市消防団 樋脇中央分団 分団長 松元 健二

私たち樋脇中央分団は、塔之原部20人、河内部分団14人で構成し、樋脇北分団のエリアを除く、塔之原エリアを管轄しています。

管轄区域内は高齢者や独居老人の方も多く、台風襲来や大雨などが想定される時期は、広報活動をはじめ、エリア内の見回りが重要な活動となります。これらの活動は、コミュニティ協議会との連携が重要であることから、各種会合への参加やイベントへの協力などを行い、消防団として地域に密着した活動を行っています。最近では若い団員も増え、地域における防災意識の高まりを感じながら、消防団活動に一生懸命に取り組んでくれていることに感謝をしています。地域住民の皆さまの安全と安心な暮らしを守るために、全団員が一致協力して、「災害のない街づくり」に取り組みしていきます。



地震に備えを! ~あの目あの時を忘れない~

大地震なんて自分の身にはおきないだろう…。そう思っていないですか？

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から、間もなく3年がたとうとしています。この震災により2万人を超える死者、行方不明者が発生し、いまだ多くの方々が避難生活を余儀なくされています。被災された人々の多くが、まさかこんな大地震が自分の身におこるとは思っていなかったようです。

東日本大震災の教訓を忘れず、大切な自分の命、家族の命を守るため、いつ発生するとも分からない地震に備えましょう。



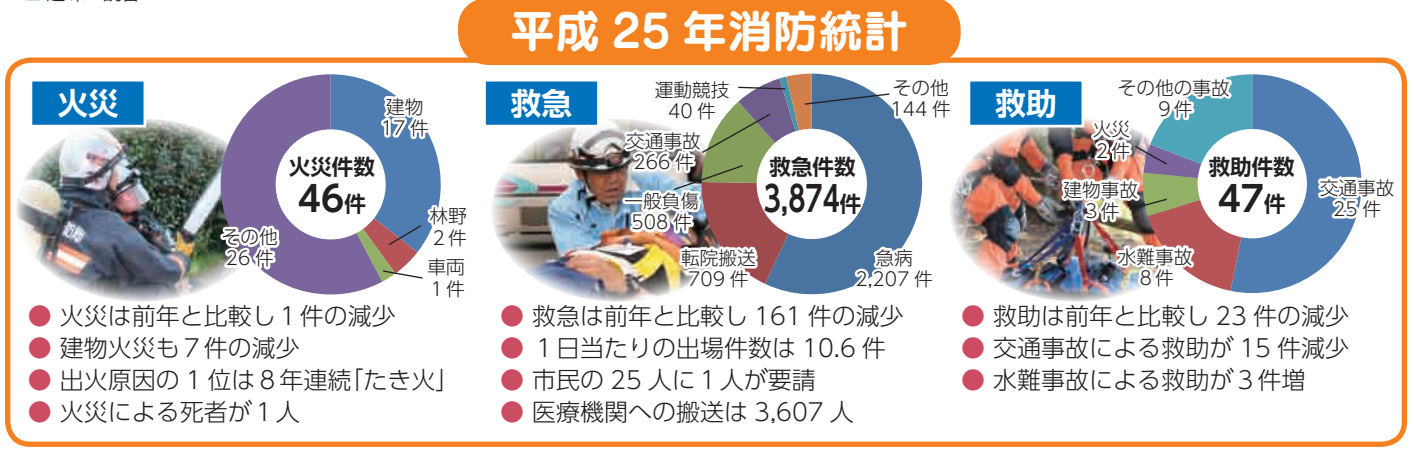
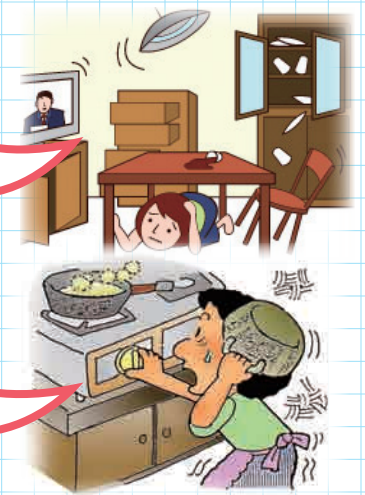
大地震発生…あなたは自分の身を守れますか？

大地震発生 ■ **まず自分の身を守る**

大きな地震の揺れは数分間続くことがあります。揺れを感じたら早めにテーブルなどの下にもぐり、落下物などから身を守る行動をとりましょう。もし動けなければ、近くにある座布団やカバンなどで頭を守りましょう。

揺れが収まったら ■ **落ち着いて火の元確認と初期消火**

火を使っているときは、揺れがおさまってから火の始末をしましょう。揺れの最中に無理に火を消そうとすると逆に危険です。万一出火したときは、落ち着いて消火器や水バケツなどで消火しましょう。



住宅用火災警報器は維持管理を忘れずに!

火災から大切な命を守るため、全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。住宅用火災警報器が適切に機能するためには、維持管理が重要です。「いざ」というときに住宅用火災警報器がきちんと働くよう、日頃から作動確認とお手入れをしておきましょう。

- ① 定期的に作動確認を**
電池が切れると作動しなくなります。点検ボタンを押すなどして作動確認をしましょう。
- ② 電池交換も忘れずに**
電池の寿命は機種により異なりますが、10年間作動するものが主流です。作動試験で音が鳴らない場合は電池切れが疑われます。早めに購入店やお近くの電気店などで購入し交換しましょう。
- ③ 警報器にほこりがたまらないように!**
警報器にほこりが入ると誤作動を起こしたり、正常に機能しなくなります。乾いた布などで定期的に拭き取りましょう。

消防ミニ図鑑 No.29

【救急バッグ】

救急隊は、傷病者の状況を素早く観察し、必要な応急処置を行いながら、症状に合った医療機関へ搬送します。

その際に使用するのが、血圧計、パルスオキシメーター(血液中の酸素濃度を調べる器材)、バック・バルブマスク(人工呼吸の際に肺に効率良く空気を送る器具)、喉頭鏡(のどの奥を調べる器具)、マギール鉗子(のどに詰まった異物を取り除く器具)などで、救急バッグにはこれらの資器材を備えています。

ドアを開けて出口を確保

玄関やドアが開くか確認し、開く場合は開けたままにして出口を確保しましょう。開かない場合は、工具などでこじ開けましょう。慌てて外へ飛び出すのは危険です。瓦やガラスなどの落下物に十分注意をしましょう。

安心するのはまだ早い ■ **余震に注意し正しい情報入手**

大きな地震の後には余震にも注意しましょう。また、テレビやラジオなどから発表される正確な情報を聞き、津波にも警戒しながら、避難が必要な場合は迷わず早めに避難しましょう。